



東日本大震災 ②

津波被害の校舎 遺構に

【メモ】高さ約7・5mの津波が来たいわき市久之浜町には震災後、高さ14mの津波避難ビルができました。260人が緊急避難でき、3日分の水や食料などが準備されています。

2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災では、福島県などの海岸沿いの地域に津波が押し寄せ、たくさんの方が亡くなり、多くの建物が壊れました。海の下で強い地震があると津波が起きます。浪江町の請戸小学校は、海から300mほど離れていますが、高さ約15mの津波が2階の床まで押し寄せました。校舎にいた2、6年生82人は、先生たちと逃げて全員無事でした。請戸小は、災害の教訓や地域の歴史を伝える「震災遺構」になっています。津波が来た時間で止まった時計や、鉄骨がむき出しになった1階の廊下の天井など、津波の被害の大きさを見学することができます。

▲ 8月28日 福島民友新聞掲載

きじをよんでおもったこと、みんなとはなしてかんじたことをかこう。(120字くらい)
